

| 科目名   |       | 担当責任者  |        |
|---|-------|--|--------|
| 精神看護援助論   |       | 矢田浩紀、米元富貴代   |        |
| Psychiatric and Mental Health Nursing   |       |  |        |
| 標準履修年次  | 必修選択別 | 単位数  | 科目ナンバー |
| 3年・前期   | 必修    | 1単位  | 3D301  |
| 授業の概要(ねらい)  |       |  |        |
| <p>1年生で学修した医療コミュニケーション論、メンタルヘルス論、2年生で学修した医療倫理学、臨床医学論Ⅱ、精神看護学概論をベースにして、精神看護実践における相互作用場面・援助の人間関係の理解と、特徴的な精神・身体症状に対する基礎的援助を理解する科目です。</p> <p>具体的には、ケアの人間関係の学びをもとに症状マネジメントについて理解を深め、精神障がい者の社会参加やその看護について学びます。そして、これらの知識をもとに他の学生とディスカッションを持ち、精神看護に特徴的なアセスメントを行い一連の看護過程が展開できるようになることを目指します。よって、看護学科の4つのディプロマ・ポリシーのうち、人間の総合的な理解、専門職業人として自己をみつめ自主的な学習を継続する姿勢、及び人権を擁護する看護の責任と役割について学ぶこととなります。</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業です。担当教員は、看護師として臨床において精神看護に携わった経験を活かし、精神障害者の実態に合わせたケアについて解説します。</p> |       |  |        |
| 授業の到達目標   |       |  |        |
| <p>【ディプロマ・ポリシーとの関連：①・③・④】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護の定義、目的、対象、看護援助の特徴を述べるができる。</li> <li>2. 患者-看護師間の人間関係について述べるができる。</li> <li>3. 精神看護における身体ケアについて述べるができる。</li> <li>4. セルフマネジメントと看護について述べるができる。</li> <li>5. 地域における精神看護について述べるができる。</li> <li>6. 精神症状のアセスメントを行うことができる。</li> <li>7. 精神看護の特徴的な援助を説明することができる。</li> <li>8. 看護理論をふまえた看護過程の展開を行うことができる。</li> </ol>  |       |  |        |
| 成績評価の方法および基準  |       |  |        |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定期試験（評価比率：50%）</li> <li>2. 小テスト（評価比率：10%）</li> <li>3. 看護過程に関する記録用紙、課題レポート(評価比率：40%)</li> </ol> <p>※提出物（課題レポートや記録用紙）については、事前に配布するルーブリックで評価します。<br/>         ※小テストやレポートに対し、講義の中で解説等のフィードバックを行います。</p>   |       |  |        |
| 教科書   |       | 参考書  |        |
| <p>ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本 メディカ出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版</p> <p>オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開 ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>これからの精神看護学 ピラールプレス</p>  |       | <p>オレム看護論 看護における基本概念 医学書院</p> <p>自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード 日総研</p> |        |
| 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容およびそれに必要な時間  |       |  |        |
| <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスをよく読み、事前に授業内容に示してある内容について読んでおくこと。</li> <li>・指定された教科書のページは必ず読み、わからない部分は調べてまとめておくこと。</li> </ul> <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の配布資料はファイリングすること。</li> <li>・ノートを作成して授業の内容を自分で理解できるようにまとめておくこと。</li> <li>・小テストを行いますので、前回までの授業を復習しておくこと。</li> </ul> <p>【必要時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該期間に15時間以上の予習・復習が必要です。</li> </ul>  |       |  |        |
| その他履修上の注意事項   |       |  |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例についてアセスメントを行い、看護計画を立ててもらいます。グループ内で検討し、内容を発表してください。</li> <li>・この科目とディプロマ・ポリシーとの関連をカリキュラム・マップを参照し、理解すること。</li> </ul>  |       |  |        |

| 回数 | 担当者           | 授業内容   |
|----|---------------|--|
| 1  | 矢田浩紀<br>米元富貴代 | ガイダンス:本科目の展開計画(各講義についての説明)<br>1.ケアの人間関係  |
| 2  | 矢田浩紀          | 2.精神看護におけるケアの方法(精神障害と看護の実践p144~170)<br>1)行動制限に対する援助  |
| 3  | 矢田浩紀          | 2.精神看護におけるケアの方法(精神障害と看護の実践p144~170)<br>2)日常生活行動の援助<br>3)服薬治療に関わる援助   |
| 4  | 矢田浩紀<br>米元富貴代 | 3.地域における社会資源の活用(精神障害と看護の実践p192~213)<br>1)地域精神保健活動における社会資源の活用<br>2)在宅医療との連携<br>4.臨床実習から学ぶ(精神障害と看護の実践p262~274)<br>1)カンファレンスの意義<br>2)実習の記録<br>※精神障害者の社会復帰支援と社会資源の活用の実際等 |
| 5  | 米元富貴代         | 5.事例に学ぶ看護の実際(精神障害と看護の実践p230~256)<br>1)統合失調症(急性期・慢性期)<br>2)うつ病  |
| 6  | 矢田浩紀          | 5.事例に学ぶ看護の実際(精神障害と看護の実践p230~256)<br>1)パーソナリティ障害 2)パニック障害 3)摂食障害  |
| 7  | 矢田浩紀<br>米元富貴代 | 6.オレムのセルフケア理論<br>1)具体的な記録・分析のやり方<br>7.プロセスレコードの書き方   |
| 8  | 矢田浩紀<br>米元富貴代 | 8.統合失調症慢性期(事例)の看護計画立案<br>1)精神症状のアセスメント<br>2)看護に必要な情報を収集  |
| 9  | 矢田浩紀<br>米元富貴代 | 8.統合失調症慢性期(事例)の看護計画立案<br>3)セルフケアへ及ぼす影響のアセスメント<br>4)看護問題の明確化  |
| 10 | 矢田浩紀<br>米元富貴代 | 8.統合失調症慢性期(事例)の看護計画立案<br>5)看護計画を立案   |
| 11 | 矢田浩紀<br>米元富貴代 | 9.看護計画の発表(統合失調症慢性期)<br>1)事例による看護過程の展開について、発表・質疑応答・まとめ  |
| 12 | 矢田浩紀<br>米元富貴代 | 10.うつ病(事例)の看護計画立案<br>1)精神症状のアセスメント<br>2)看護に必要な情報を収集  |
| 13 | 矢田浩紀<br>米元富貴代 | 10.うつ病(事例)の看護計画立案<br>3)セルフケアへ及ぼす影響のアセスメント<br>4)看護問題の明確化  |
| 14 | 矢田浩紀<br>米元富貴代 | 10.うつ病(事例)の看護計画立案<br>5)看護計画を立案   |
| 15 | 矢田浩紀<br>米元富貴代 | 11.看護計画の発表(うつ病)<br>1)事例による看護過程の展開について、発表・質疑応答・まとめ  |